

社会科における「はがき新聞」を活用した指導

見附市立見附第二小学校 荒井 琢郎

1 テーマ設定の理由

今年度、3年生1人、4年生3人の複式学級を担任している。複式学級を担任することは初めての経験である。そのため、日々の指導に試行錯誤を繰り返している。

今年度4年生の社会科を指導している。社会科では様々な施設を見学したり、子どもたちが主体的に調べたりしたことを、まとめる活動が多い。そこで、アクティブラーニングの視点に立ち、子どもたちが社会科で学習した内容を主体的にまとめる方法を模索した。

そこで注目したのが「はがき新聞」である。「はがき新聞」とは、はがき大の用紙に、レイアウトを考えながら、文章、絵、図などを効果的に配置し、学んだことを新聞形式でまとめたものである。「はがき新聞を使った授業づくり」(公益財団法人理想教育財団 2012)によると「制作にあまり時間がかからず新聞づくりの良さが発揮できる」「はがき新聞づくりは、子どもたちの言語力を高め、豊かな人間関係を育むうえで、大きな教育効果が期待できる」と述べられている。このことから、「はがき新聞」を活用することで、子どもたちが主体的、協働的に学習に取り組み、学んだことをまとめる力や表現する力を高めたいと考えた。

2 目指す姿

(1) 学んだことを整理する姿

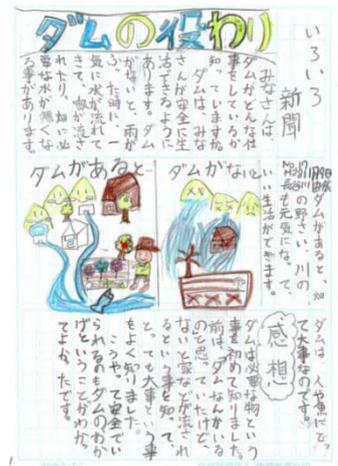
社会科で取り組んだ活動について、初めて知ったことや興味・関心をもったこと、考えたこと、調べたこと、心に残ったことなど、自分の体験した具体的な場面を想起し、読む人に伝わるような文章にまとめる力を高めたい。自分の体験した具体的な場面を想起し、どの場面を取り上げるかを主体的に選び、その場面を効果的に伝えられるよう、意欲をもって書く姿を期待する。

(2) 伝えたいことを分かりやすく表現する姿

「はがき新聞」を書く際にレイアウトを工夫する、大切なキーワードを絵で飾って目立つようにする、図や絵を使うなど、まとめた内容を効果的に伝える力を高めたい。読む人に自分の学んだことが分かりやすく伝わる「はがき新聞」を書く姿を期待する。

(3) 友達と協働的に取り組む姿

「はがき新聞」を書いた後、それを読み合う場を意図的に設定する。読み合う中で、お互いの新聞のよさや、自分にはなかった捉え方、考え方の違いに気付き、同じ社会的事象に対しても、自分と友達では捉え方が違うことに気付く姿を期待する。



3 目指す姿を具現化するための手立て

(1) 見学や調べ学習で学んだことをリストアップする場の設定

見学や調べ学習を終えた後に、学習した事項をリストアップする場を設定する。そして、それぞれの事項について、気付いたことや考えたことを交流させる。この交流を板書として残し、これを手がかりとしながら「はがき新聞」に書く内容を主体的に選べるようにする。

(2) リストアップした事項の中から、「はがき新聞」に書く内容をアドバイスし合う場の設定

「はがき新聞」を書いている途中、書き方に迷うことや、内容を間違えて書いてしまうことが予想される。そこで、作業中はお互いにアドバイスし合えるよう、座席を合わせたり、内容を見合う時間を意図的に設定したりした。お互いにアドバイスをし合うことで、学んだことを整理し、より相手に内容の伝わりやすい「はがき新聞」を書くようにする。

(3) お互いの「はがき新聞」を読み合う場、教師・保護者が評価する場の設定

作成した「はがき新聞」を読み合う場を設定する。これにより、お互いのよさや、自分にはなかった捉え方や、考え方の違いに気付く場とする。また、作成した「はがき新聞」を学級だよりに掲載し、それぞれの新聞のよさや、子どもたちが学んだ内容を保護者にお知らせする。これにより教師、保護者の双方から学習した内容を評価し、学びの深まりや、学習をまとめる力、表現力の高まりを子どもたちに実感させる。



4 活動の実際と考察

新潟県庁見学 単元名「わたしたちの県のまちづくり」

(1) 見学や調べ学習で学んだことをリストアップする場の設定

新潟県庁を見学した際に「はがき新聞」を書いた。まず、見学した内容をリストアップした。「県庁のつくり」「テレメータ室」「災害対策本部」「県議会会議室」「交通管制センター」「通信指令室」「展望台」が挙げられた。次にそれぞれの場所で学んだことを伝え合った。教師は伝え合った内容を黒板に書いて残した。

「はがき新聞」を書く活動に入ると、児童Aが書く内容を決めかねている様子が見られた。そこで、教師が黒板の内容を指し、「この中で特に心に残っていることを選んでごらん。」と声をかけた。すると児童Aは「県庁は太陽の光をたくさん取り入れていることが分かったから、県庁の造りについて書きます。」と、見学したことを想起し、その内容を書くことに決めた。黒板にリストアップした項目によって、子どもが主体的に、書く内容を選ぶことができた。

(2) リストアップした事項の中から、「はがき新聞」に書く内容をアドバイスし合う場の設定

「はがき新聞」を書く途中、児童Bが「県議会の議室の壁にある石は、何ていう名前の石だった？」と友達に相談する姿が見られた。聞かれた児童Cはそのことについてメモを取っていなかったが、児童Aに聞き、それが大理石であることが分かった。また児童Dは「通信指令室には一日に何件電話があった？」と児童Cに聞き、それが347件であることが分かった。児童Cは「いたずら電話が1日に63件あるって言ってたから、そのことについて書いたらどう？」と児童Dにアドバイスをする姿が見られた。「はがき新聞」を書く中でアドバイスをし合い、よりよい「はがき新聞」を作ることができた。

(3) お互いの「はがき新聞」を読み合う場、教師・保護者が評価する場の設定

最後に、作成した「はがき新聞」を読み合う場を設定した。児童Cは児童Aに対して「県庁の絵に光が差し込んでいるように描いているから、光を取り入れる工夫をしていることが分かるよ。」と、伝えていた。また児童Dは児童Bに対して「テレメータ室はPM2.5も調べているんだね。放射線だけだと思っていたよ。」と伝えていた。完成した「はがき新聞」を読み合うことで、お互いの「はがき新聞」のよさや、自分の気付かなかったことに気付くことができた。

作成した「はがき新聞」は学級だよりで全員分を掲載した。その際、それぞれの「はがき新聞」のよさを教師が紹介するようにした。保護者も、子どもの頑張りや学んだことを知ることができた。朝の会でも、それぞれの「はがき新聞」のよさを教師が紹介した。これにより子どもはどんな書き方やまとめ方がよいのか分かり、次の「はがき新聞」を書く際に活かすことができた。



5 おわりに

今回社会科の学習のまとめの場面に重点を置き、「はがき新聞」を活用して継続的に指導をしてきた。「はがき新聞」を活用することで、子どもたちが学んだことを整理したり、伝えたいことを分かりやすく表現したりする姿が多く見られた。子どもたちからは「はがき新聞を書くのが楽しみ。」「友達と相談したり読み合ったりして、はがき新聞にうまくまとめられるようになった。」という声も聞かれた。「学習したことをまとめる力や表現する力が高まっている。」と、子どもたち自身も意識していることが分かる。

今後は社会科だけでなく、他教科でも積極的に「はがき新聞」を活用していきたい。